

(1) 主題名 自律と責任〔中学校 1 - (3)〕

(2) ねらい 自己の尊厳に気付き、何が正しく、何が誤りであることを自ら判断して望ましい行動がとれるような態度を育てる。

(3) 資料名「ある少年の死」(出典：広島県警察本部生活安全部制作VTR)

資料の概要

両親が離婚して母親と二人だけの生活が始まった。友だちのバシリ、そして暴走族へ足をつっこんでいくエイスケ。最初はやさしかった仲間に都合のいいようにつかわれるうち、だんだんと仲間たちに対して怖さを感じるようになる。けがをして入院したことをきっかけに暴走族から抜けようという気持ちになった矢先、エイスケは、尊い命を落としてしまう。

(4) 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 提起した問題について自分の考えをもつ。	○先輩に「一週間後の夜に、バイクで走るが、後ろに乗せてやるから一緒に来ないか。」と誘われました。あなたはどうしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・断る・・・・・・・・赤 ・断ることができない・・・・青 ○夜の暴走行為に先輩から誘われていることに子どもの様子から気付きました。我が子に対し、あなたならどうしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひきとめる・・・・・・・・赤 ・ひきとめることができない・・・・青 	生徒に自分の考えをカードで意思表示させる。 保護者に自分の考えをカードで意志表示してもらう。
展 開	2 VTR「ある少年の死」を見て話し合う。 3 導入で提起した問題について再度自分の考えをもつ。	あなたは、エイスケにどんなことを言ってあげたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・エイスケに悪気はなかったのにね ・暴走族に入らなければ死ななくてすんだのに ・寂しかったんだね ・あの時誰かに相談しておけばよかったのに ・どんなことをしても引き留めるべきだった ・とりかえしのつかないことをしてしまった ・どんなに後悔してもきれない ○もう一度授業の最初と同じ問題を提起します。あなたはどうしますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・断る・・・・・・・・赤 ・断ることができない・・・・青 	VTRが27分間あるので、時間を考慮しながら生徒と保護者の両方に考えてもらい意見交流をする。 生徒には親友の立場、保護者には親の立場で考えさせる。 生徒と保護者の意思表示の変化に注目する。
終 末	4 今日の授業の感想を書く。	○今日の授業ではどんなことを感じましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・親の意見に感動しました ・親の意見を聞いて、子どもが先に死ぬことの辛さを強く思った 	保護者から今日の授業について話してもらう。

実践報告にみる留意事項

1 資料・題材について

この資料は、広島県警察本部生活安全部が制作した暴走族加入防止広報ビデオである。内容は、暴走族に入り命を落としていた少年に対し、母親のいくら後悔してもしきれない気持ちを訴える内容になっている。したがって生徒と保護者が共にビデオを視聴し、意見を交流する授業にすることがより効果的であると考えた。

2 指導過程の工夫

保護者参加の学年道徳として授業を実施したので、導入部の問いについては意思表示が全体の中で明確になるように色カードを使用した。また、ビデオの視聴時間が27分と長いので発問をしぼり、考える時間を十分にとった。授業のねらいにどこまで迫ることができたか確かめるために意見交流の後、導入と同じ問いを再度生徒にすることにした。この授業では、生徒だけでなく保護者にも意見を述べてもらったことでより生徒の心に響く展開にすることができた。

3 発問の工夫

導入で「暴走行為に先輩から誘われた時あなたはどうするか」という生徒向けの発問と「暴走行為に誘われていることに気付いたあなたは、我が子に対しどうするか」という保護者向けの発問を考えた。意思表示は色カードで二者択一にしたので効果的であった。展開の中心発問は、「エイスケにどんなことが言ってあげたいか」とした。

生徒は親友という立場で保護者は親の立場で考えることとしたが、意見交流をする上で発問を一つにしぼり同じ内容にしたことは効果的であった。

4 生徒の反応

ビデオを見て感想を述べるだけの展開でなく、発問を通して保護者と生徒が意見の交流をしたことでこの資料の目的である暴走族加入防止により迫ることができたと考ええる。

- ・何で死んでしまったんだよ。でも立ち直ろうと精一杯だったんだよね。
- ・相談にのってあげられなくてごめんね。エイスケのぶんも頑張ってます。
- ・何で親を悲しませることをしたんや。
- ・とても優しくあったあなたにはもっと生きてほしかったし、自分をもっと大切に生きてほしかった。
- ・何でぼくに相談してくれなかったんだ。
- ・エイスケ辛かったんだね。助けてあげられなくてごめんね。

発問に対して、我が子の姿と重ね合わせ涙ながらに思いを述べられた親もあり、生徒の心を強く揺さぶった授業になった。

5 授業後のフォローアップ

ビデオの視聴後の授業時間が短かったため、生徒も保護者も限られた人数でしか意見交流ができなかった。そこで授業後の教室掲示や学級通信等を通して生徒や保護者の思いを紹介した。

(吉田中学校)